

# 「ヘルスバレーボール」の教材的価値を探る

— 小学校 6 年生を対象とした授業実践から —

中村 龍誠 ( 愛知教育大学 )

## 1. 緒言

ネット型の教材として授業に取り入れられることが多いバレーボールは、技術格差がつきやすいという問題点がある。澤村ほか (2021) は、「バレーボールは、他の種目と異なり、瞬時のはじき動作でボールをコントロールしなければならず、技能を身に付けることの難しさ、どのような練習をすることで技能が高まるのかを考えさせることの難しさがある」と述べている。西野 (2022) は、ヘルスバレーボールは年齢・性別に関係なく、誰でも楽しく・面白くできるスポーツとして様々な場面で実施され、ラリー継続を楽しむことができると報告している。しかし、ヘルスバレーボールを用いた授業実践はされていない。そこで本研究では、小学校 6 年生を対象にヘルスバレーボールを用いた授業実践を行い、体育授業におけるネット型の学習においてヘルスバレーボールの教材的価値を探ることを目的とする。

## 2. 方法

### 1) 対象者と期間

- ・対象者：N 市立 Y 小学校 6 年生 37 名 (男子 19 名・女子 18 名) 男女混合 6 チーム編成
- ・期間：令和 5 年 10 月から 11 月 計 5 時間

### 2) 実践内容

- ・ゲームを中心としゲームを通した課題解決学習
- ・授業の始め、中盤、終わりに必要に応じて集合し、児童の意見の共有を行い、学習を促進した
- ・1~4 時間目は主にチーム練習とゲームを繰り返す行う
- ・5 時間目はヘルスバレーボール大会を実施

### 3) 教具の特徴「ヘルスボール」

- ・楕円形 (長径約 90cm、短径約 50cm)
- ・滞空時間が長く予測不能な動き

### 4) 分析方法

授業の映像記録、学習カード、アンケートを収集し、授業実践を経て、児童の動きや思考がどのように変化したのかを検証した。

## 3. 結果と考察

筆者が指導者となり授業実践を行った。ここでは第 1 時と第 5 時のクラス全体の動きと B チームの動きの一部を取り上げる。

第 1 時は、打ち返しにくい打球も 1 回目で打ち返そうとしてネットにかかる場面が多く、ラリーが継続することは少なかった。B チームは、1 試合目ではチーム全員がコートの中の部分に集まっていたが、2 試合目では前後左右に広がったという変化が見られ、頭の上を越して後ろにボールを落とされることがなくなっていた。

第 5 時のヘルスバレーボール大会では、相手からの返球に対して、ファーストタッチでボールを高く上げたり、相手の位置を確認して空いたスペースにボールを落とす攻撃をしたりしているチームも見られた。さらに B チームは、意図的な 3 段攻撃をする姿が見られた。

授業実践中、筆者から児童に対して技術指導は行わないようにした。ヘルスボールを仲間につなぐことをはじめ、ボールは下から上に向かって打つこと、前衛と後衛に分かれたポジション、ブロック、3 段攻撃など、すべて児童の「点を取る、または取られないためにはどうすれば良いか」という思考のもとで生み出され、児童自身が考え、試行しながら実践されたものであると考えられる。

## 4. 結論

本研究において、ヘルスバレーボールは、運動が苦手な児童でも楽しんで学習することができるネット型ゲームの学習教材として価値があることが示唆された。